

ローマ字・英語の読み書き困難に対する RTI モデル支援(2)

支援方策に関する予備的検討

○銘苅実土 小池敏英
(帝京大学教育学部) (尚絅学院大学学校教育学類)
KEY WORDS: ローマ字 英単語 読み書き困難

I. 目的

検討(1)の結果より、調査を行った小学校の 5,6 年生においては、ローマ字の定着に困難を示す児童の存在が一定数確認された。ローマ字が小学 3 年生で指導されることを踏まえると、困難を示した児童らは一斉指導では十分学習できなかったと考えられ、困難の背景を踏まえた小グループまたは個別指導による支援の必要性を指摘できる。

したがって本研究では、ローマ字学習支援に用いるプリント教材の支援効果及び遠隔会議システムを利用した個別学習支援の効果を検討することを目的とし、検討を行った。

II. 方法

対象: X 市公立小学校に在籍する小学 5 年生の女子児童を対象として検討を行った。支援開始前は、対象児自身の名前に用いられる二音節のみローマ字で書ける状態であった。個人情報扱いについては、発表にあたっては個人の特定保護者に説明し、同意書を得た。また、研究参加と発表の同意を含む研究倫理の手続きに関しては、帝京大学倫理委員会により承認を得た。

支援課題: 銘苅(2018)の用いたローマ字の混成規則を指導するプリント教材(図 1)に基づき、学習支援を行った。プリント教材は、後に英語の読み書きの基礎となる力を育成するという目的から、ローマ字と英語の読み書きとで発音が大きく異なる音については除外された。また、児童の混乱を避け、まずは基礎的な混成規則を習得させるねらいから、ヘボン式と訓令式とで表記の異なる音についても除外した。

1. 文字と読みかたをかくにんしましょう。

文字(読みかた)	文字	読みかた	文字	読みかた	文字	読みかた	文字	読みかた
	a	ア	i	イ	e	エ	o	オ
※ k(ク)	ka	カ	ki	キ	ke	ケ	ko	コ

※()の中のカタカナは、英語で「k」の文字を認識したときの音を表しています。日本語の「ク」よりも、短い音です。

2. 次の文字の読み方を、カタカナで書きましょう。
スタートからはじめ、ゴールをめざしましょう。

スタート①

k+a	(ク)+ア	k+o	(ク)+オ	k+e	(ク)+エ	k+i	(ク)+イ
ka	カ	ko		ke		ki	

ゴール①

スタート②

ki		ka		ko		ke	
----	--	----	--	----	--	----	--

ゴール②

図 1 使用したプリント教材(一部抜粋)

支援手続き: 支援は全て遠隔会議システム(Zoom)を用い実施した。支援は週に 1 度実施し、学習時間は概ね 15 分程度であった。まず、ホワイトボードに学習するローマ字を書き、子音と母音の音を口頭で提示した上で、対象児に音を混成した結果を推測させ、答えさせた。答えられない場合は混成過程を口頭で提示し(例:「ク」と「ア」を足すと、「ク・ア」、「クア」、「ケ」)、正答できるまで繰り返した。学習する全てのローマ字について正答できたら、プリント教材を用い学習した。

III. 結果・考察

表 1 は、プリント学習開始前の混成規則の確認において、正答できるまでの誤答数を示す。第 1 回目の学習は母音の

みの学習であったため、混成規則の確認は行わなかった。学習初期は、母音が a, e の場合に誤答を繰り返す様子が見られた。母音が a の場合の誤りは、子音を混成できず「あ」と回答するものであった。一方母音が e の場合は、母音が i または e の場合と混同する誤りが見られた。しかし、指導 6 回目以降は誤りが見られなくなり、安定して音を混成できるようになった。

表 1 混成規則の確認時における誤答回数

指導回数	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
子音	k	s	t	n	h	m
母音a	2	1	1	0	0	0
母音i	0	—	—	0	0	0
母音e	3	2	0	1	0	0
母音o	0	0	0	0	0	0

—: 指導せず

混成規則の定着について確認するため、指導 7 回目に図 2 を見せ●に入る文字を尋ねたところ、正答することができた。●には全て同じ文字が入ると説明しなかったにも関わらず、迷わず共通する母音を答えることができたことから、本検討で用いた支援手続きの有効性が示唆された。

n	t	s	k
な	た	さ	か
n●	t●	s●	k●

図 2 混成規則の確認に用いた教材

IV. 今後の研究計画

本検討により、支援手続き及び支援教材の有効性が示唆された。今後は以下の日程で、RTI モデルに基づくプリント教材による全体への学習支援、及び全体への支援でも学習が困難な事例に対するオンライン個別支援を実施し、その支援効果を検証する。

4~5月	読み書き基礎調査	支援開始前の基礎的な学習スキルの評価
	授業での学習観察	支援開始前の学習行動・学習内容の定着の程度を把握
6月	基礎調査報告	教員対象の調査結果の報告
	学習支援に関する研修会	及び学習支援内容の説明
6~7月	前期学習支援・授業支援	プリント教材の提供及び学生ボランティアによるオンライン学習支援
9~3月	後期学習支援	プリント教材の提供及び学生ボランティアによるオンライン学習支援

V. 引用文献

銘苅実土(2018) 中学生における英単語綴り困難の背景と支援方法に関する研究. 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士論文.
(KOIKE Toshihide, MEKARU Mito)